

第12回 茨城呼吸療法セミナー開催報告

令和7年2月23日につくば国際会議場にて第12回茨城呼吸療法セミナーが開催されました。3学会合同呼吸療法認定士の単位付与セミナーとして10回目となり、臨床工学技士のほか看護師、理学療法士、作業療法士と幅広い職種から45名のご参加をいただきました。



教育講演①「お子さんの暮らし生育を支える小児在宅人工呼吸療法～呼吸リハビリとしての人工呼吸器とその工夫・可能性～」
あおぞら診療所うえの 院長 戸谷 剛 先生

教育講演②「慢性呼吸器疾患の管理の実際」
神奈川県立循環器呼吸器病センター
慢性呼吸器疾患看護認定看護師 慢性疾患看護専門看護師 和田 希 先生

教育講演③「コロナ渦における人工呼吸器供給体制及び先進機能について」
日本光電工業株式会社 国内事業本部 人工呼吸器営業部 部長 屋比久 育夫 先生

教育講演④「呼吸療法サポートチームの歴史から見える役割」
横浜市民病院 臨床工学部 技士長 相嶋 一登 先生

教育講演⑤「人工呼吸器管理中の呼吸リハビリテーション」
筑波大学附属病院 リハビリテーション科 療法士長 石川 公久 先生

以上の講演があり、参加者は真剣に聴講しておりました。

今年度は早期離床リハビリテーション等の導入期における呼吸管理から、RST介入を含む慢性期～在宅医療と入退院一連の内容のほか、医療機器メーカーの視点から今後の人工呼吸器におけるAI技術構想など、参加者の幅広いニーズに沿った興味深いセミナーであったと思います。また告示研修2021以降、各施設においてタスクシフトシェアと我々の業務介入も多様化している昨今、在宅酸素療法での関わり方や集中治療室への介入意義など、職種としての在り方を再考する場ともなったのではないのでしょうか。

今後も臨床に役立つセミナーの目指し、グループ同企画して参りますので、引き続き皆様のご参加をお待ちしております。